

1971 年 8 月 7 日 第 3 種郵便物認可(毎月 1・6 の日発行)

2023 年 7 月 14 日発行 SSKA 頸損 通巻 11085 号

SSKA 頸 損 KEISON No. 140

目 次

特集 全国総会・兵庫大会報告	1
全国総会・兵庫大会報告	1
兵庫大会を開催して	3
全国総会報告	4
シンポジウム報告	5
次回開催地告知	7
今西正義氏追悼文	8
エレベーターの基準サイズ	10
事務局からのお知らせ	12
有料道路が障がい者割引制度・対象となる自動車の範囲変更	13
京都支部の活動紹介	14
To be yourself「65 歳問題」開催報告	16
介護保険制度について考えよう	17
どうなる？ゲームアクセシビリティ	18
編み物を諦めていたが、指が硬直していても編める優れ物！	20
電動車椅子の航空機搭乗手続きの諸問題について	22
頸損解体新書 2020・調査報告書作成を終えて	24
全国頸損連絡会&関係団体”年間予定”	26
お役立ち！？	27
報道・情報ピックアップ&各種案内	28
支部ニュース	30
全国頸髄損傷者連絡会連絡先	31
編集部のページ	32

全国総会・兵庫大会を終えて

9年振りの現地開催に至るまで

兵庫頸髄損傷者連絡会 米田 進一

〇はじめに

去る6月3日(土)、4日(日)の二日間で、JR姫路駅前にあるホテル日航姫路3F「光琳の間」にて、第50回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会(以下:兵庫大会)を実施しました。

新型コロナウイルスが世界中で猛威を奮い、私たちの生活も一変し、少しの外出さえも自粛せざるを得ない日々が3年程続きました。今回は実に4年ぶりの対面での開催となった兵庫大会の報告をします。

〇式典

最初に全国頸髄損傷者連絡会事務局次長の鈴木太氏より開会挨拶があり、式典セレモニーが始まりました。続いて兵庫県立総合リハビリテーションセンター所長の陳隆明氏、澤村誠志名誉院長、兵庫県立リハビリテーション中央病院院長の大串幹氏から来賓祝辞を頂きました。

頸髄損傷者連絡会発足から50年という歴史の中で、長きに渡り頸損会を牽引されて来られた小森猛氏と坂上正司氏をはじめ6名の方の功績を讃えるために、村田恵子副会長が感謝状の贈呈を行いました。



感謝状贈呈の様子

〇シンポジウム

「シン・外に出ようや!ーもっと自由に!もっと楽しく!社会参加するためにー」というテーマで、外出経験が豊富な3名から外出の事例についてスライドを用いて発表して頂きました。



シンポジウム開会挨拶

第一部では、基調講演としてライフサポートはりまの田村辰男氏から、バリアフリー法の整っていない時代の公共交通機関を利用してきた体験談や、テーマパークの楽しみ方についてのお話を頂きました。

第二部では、愛媛頸髄損傷者連絡会の三ツ井真平氏から、海外旅行の楽しみ方だけでなく、ADA法(障害者差別禁止法)にも触れたお話を頂きました。九州頸髄損傷者連絡会の山崎忍氏からは、大分県別府市で行っている温泉観光企画等やグルメ情報について、ユーモアを交えてお話を頂きました。どのお話もとても興味深い内容でした。



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションは、活発に意見を交えた場となり、参加者からは「再び外出を楽しみたいと思った」と嬉しい感想を頂きました。

○夕食交流会

夕食交流会では、食事をしながら久々に再会した仲間との情報交換を行いました。お楽しみ企画として兵庫の特産品が景品となったくじ引き大会を行い、兵庫ならではの“おもてなし”に会場也大いに盛り上がっていました。式典後に会場到着された八幡孝雄副会長にこの時に感謝状贈呈を行いました。



レセプションの様子

○総会

4 日の午前中に全国総会を開催しました。質疑応答が多く交わされた、中身の濃い総会でした。



総会の様子

○姫路城登城

4 日の午後から登城を希望された参加者と一緒に、日本で最初の世界文化遺産である「姫路城(白鷺城)」を登城しました。異例とも言える車椅子の集団が列を作り、ボランティアと協力しながら進む光景に、すれ違う多くの観光客が何度も振り返っていました。

所々で傾斜が凄くて、電動車椅子や自走式車椅子で登る事が出来るのかとても心配でしたが、ボランティアの協力もあり、車椅子 25 台全員が無事に登城する事が出来ました。



姫路城登城の様子



姫路城の前で記念撮影

○最後に

コロナ禍により、外出したいと思いながらも、コロナに感染して命を落とすのではとの恐怖から、外出するのを自粛された頸髄損傷者は多かったと思います。兵庫大会に参加してくださった 151 名の方々は、勇気を出して兵庫大会へ参加してくれたのだと思っています。敬意を表します。

私たちも 9 年ぶりの兵庫大会当日を迎えるまで、緊張と重圧がありましたが、多くの笑顔を見る事が出来て、すべて報われたと感じています。同時に課題も多くありました。次回はその教訓を最大限に活かし、より良い兵庫大会にしたいと思います。

今回の兵庫大会を通じて、どんな障害があっても当たり前前に社会参加し、ごく普通に外出を楽しむ事が伝わり、颯爽と社会参加するその姿を見て「もっと外に出たい!」と思ってくれる人が 1 人でも増えてもらえたらより嬉しく思います。

本当に素晴らしい全国総会・兵庫大会を行う事が出来ました。関わってくださった全ての皆様に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

兵庫大会を終えて

全国頸髄損傷者連絡会 会長 鴨治 慎吾

今回、2023 年度全国頸髄損傷者連絡会総会を、兵庫県姫路市で行った。コロナ感染症の流行により 2020 年岐阜大会以降をオンラインでの開催としたため、2019 年の九州大会から約 4 年ぶりの対面式の大会となった。

今年は兵庫頸髄損傷者連絡会が担当ということで、米田実行委員長のもと、姫路の地で行われた。

姫路といえば、白鷺城という愛称で有名な姫路城であるが、今回会場に使用したホテル日航の上層階からも、これを見ることが出来ると聞いていた。

また、全国頸髄損傷者連絡会として 50 回目の総会ということで、記念大会とした。

当日、台風 2 号による影響で新幹線等の運転停止やダイヤの乱れがあり、主に関東方面からの参加キャンセルや、参加者が夕方に着くというハプニングがあった。

初日に、第 50 回総会記念式典を行った。

この式典では、長年頸損連絡会のため、見返りもなく奮闘された方々の功労を称え、感謝状を贈った。残念ながら先の新幹線の遅れで、私はこの場に参加できなかったが、中には高揚のあまり目が潤んだ方もいたと聞いている。

次に「シン・外に出ようや！ーもっと自由に！もっと楽しく！社会参加するためにー」ということで、シンポジウムを行った。

基調講演として、NPO 法人ライフサポートはりまの田村辰男氏。

そして、外出する重要性を考えるディスカッションとして、九州頸損の山崎氏、病欠した井谷氏の代わりとして愛媛頸損の三ツ井氏に話題提供者としてお話をいただいた。

このシンポジウムも参加はできなかったが、後の記録を拝見したところ、田村氏の過去の活動や旅行のお話、三ツ井氏の海外旅行をして感じたことなどを話されていた。山崎氏は、色々なところで食べ歩きをしていることを話された。ただそこには信念があり、車椅子の自分が利用することにより、その店

舗や施設の方々に自分たちを理解してもらえるような活動をしている事に感銘した。その後のディスカッションでは、近年バリアフリー等、世の中の環境、理解が進んできたことが確認された。しかし、コロナ禍で車椅子当事者の外出が厳しくなり、外食等店舗や施設の利用が少なった現状がある。また昔のような環境に戻ってしまわないために、皆、積極的に外出ができるように、外出するようにしていかなければというシンポジウムであったと聞いた。

そのあとは、みなさんお待ちかねのレセプション（会食タイム）となった。料理は姫路名産のものが振舞われ、松本剛明総務大臣の祝辞や来賓の方々の祝辞などがあった。

ここでは、兵庫の伊藤靖幸さんのハーモニカ演奏や兵庫の特産物が当たる大くじ引き大会などのおもてなしが行われた。

二日目は、午前中に第 50 回全国頸髄損傷者連絡会総会が行われた。ここでは予定より時間がかかってしまい、残りの議題を後日、臨時総会を行う事で終了した。

その後は、姫路城登城ツアーであった。姫路駅前のホテル日航姫路から、多くの車椅子が姫路城に向かって行った。途中の要所要所でのボランティアの観光案内もあり、久々に観光というものを味わえたのではないかなと思う。

姫路城菱の門から入りどんどん進んで行くと、段々車椅子にとって厳しい環境となってきた。ボランティアの方々が支えたり、押したりしながらゆっくりと城へと近づいていった。城の真下で皆で記念撮影をして解散していった。

今回開催するにあたって、対面式とオンラインのハイブリット開催など、いろいろと苦難があったと思われるが、兵庫支部の尽力のおかげで、姫路を楽しめ、盛大な大会になったと思う。また、ご支援ご協力いただいた皆様方には深く感謝したい。

2023 年度 全国頸髄損傷者連絡会 総会報告

事務局長 宮野 秀樹

全国頸髄損傷者連絡会・2023 年度全国総会を 2023 年 6 月 4 日（日）に、兵庫県姫路市のホテル 日航姫路・梅の間とオンラインのハイブリッドで開催しましたことをご報告します。

総会は、2023 年 6 月 3 日・4 日とで行われた第 50 回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会の 2 日目の午前中に開催しました。前日の 3 日は、台風 2 号の影響により梅雨前線が停滞し、東海地方に大雨をもたらしたため、関東一円の公共交通機関を麻痺させ、関東方面からの参加者の移動に大混乱が生じていました。4 日は、うって変わっての快晴の中、久しぶりに対面での総会を開催することができました。長く新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の感染防止のためオンラインで開催していたノウハウを活かし、会場に WEB カメラやノート PC 等の機材を持ち込み、対面とオンラインのハイブリッド環境を作り出しました。その結果、対面では参加できなかった遠方の会員も総会に出席できました。今後、この対面とオンラインのハイブリッド形式が主流となることが期待できる総会となりました。

年次総会は、ハガキとオンライン登録により出欠可否を届け出るという新たな方式を採用したこともあり、会員の皆様に混乱させてしまったかと心配しましたが、皆様のご協力のおかげで、当日参加者数（会場参加、オンライン参加）、委任状数を合わせて総会成立のための定足数を十分に満たすことができ、無事に開催することができました。総会自体は、下記の議案の通りに進行了しました。

- ・2022 年度 年間活動報告
- ・2022 年度 収支報告・監査報告
- ・頸損者を取り巻く現状と課題
- ・2023 年度 本部役員・事務局体制案
- ・2023 年度 活動方針提起
- ・2023 年度 予算案

「頸髄損傷者を取り巻く現状と課題」では、昨年度に障害者権利条約の批准に基づき建設的対話（対日審査）が行われ、日本政府へかなり踏み込んだ内容の総括所見が出されたことがあげられました。「脱施設」と「インクルーシブ教育」の 2 点に対し、「勧告(最も必要な課題)」として示されたことに注目し、この総括所見を追い風にして、当会としても隔離、分離といった負の歴史にも、家族介護依存にも戻ることなく地域移行が進められるよう、他団体と連携しながら取り組むべきと考えています。また、介助制度では、就労支援として職場介助は、重度訪問介護サービスで行えるように働きかける必要があると提言されました。医療においては、人工呼吸器を使用する高位頸髄損傷者がコロナウイルスに感染したけれど、自宅療養を余儀なくされ、心身ともに不調をきたした事例が多いことが報告され、生活を維持するための社会的ケアの重要性を、医療従事者や関係者に広く伝え知ってもらう必要があると示されました。当会としても、全国脊髄損傷者連合会や他団体で同じ課題を有する団体とは積極的に協力し、頸髄損傷者の課題解決に努めたいと考えております。

そして、会員の皆様にお詫びすることがあります。今回の総会では事務局の進行の不手際もあり、時間内で全ての議案を審議することができませんでした。「2023 年度活動方針提起」「2023 年度予算案」の 2 議案を諮ることができず、この 2 議案については「臨時総会」として別日を設けて審議いただくことを追加議案として提出し、承認いただきました。また、後日皆様のお手元に案内が届くと思います。この場をお借りしてお詫びするとともに、臨時総会開催にご協力くださいますようお願い申し上げます。

最後に、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行しました。予断は許しませんが、これから対面イベントも増えると思います。今後とも当会の活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会

シンポジウムに参加して

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田 浩敬

1. はじめに

こんにちは。兵庫頸髄損傷者連絡会で活動している土田浩敬です。この度は、第50回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会にご参加いただきありがとうございます。多くの方々が私たちの活動拠点である兵庫県を訪れ、久しぶりの対面での全国総会開催となりました。6月3日、4日の二日間に渡って行われたのですが、その中の企画の一つであるシンポジウムについて、報告させていただきます。

2. 概要

日時：令和5年6月3日（土）14:20-16:30

場所：ホテル日航姫路 3階 光琳の間

テーマ：シン・外へ出ようや！ーもっと自由に！もっと楽しく！社会参加するためにー

<スケジュール>

14:20 開会

第1部 基調講演

田村辰男氏

(NPO法人ライフサポートはりま)

15:10 第2部 外出する重要性を考える

ディスカッション

話題提供者1：三ツ井真平氏

(愛媛頸髄損傷者連絡会)

話題提供者2：山崎 忍氏

(九州頸髄損傷者連絡会)

15:50 ディスカッション

16:30 閉会

3. 過去と現在と

「シン・外へ出ようや！」とは、2009年に兵庫県神戸市ポートアイランドのニチイ学館で行われたシンポジウム「外に出ようや！」を、現在と比べて検証してみようというのが発端でした。高位頸髄損傷者の社会参加と自立について焦点を当てた「外に出

ようや！」から、現在はどのように街や人が変わったのか。私たちが「外に出て行く意味」について、熱い意見のやり取りが行われました。

外に出て行った先人の想いを、私たちが受け継いで現在の社会はあります。私たちは、ある程度バリアフリーも整っていて、それ程不自由に感じない社会で暮らしているのですが、それが当たり前だと思うのは、少し違うようにも感じます。それは不便でも使い続けて改善を繰り返した結果が、今の社会となっているのです。かつて、JR姫路駅にもJR三宮駅にもエレベーターが無かったのです。兵庫県の中の主要な駅ですらエレベーターが無かった時代がありました。そのような状況下で、先人の草の根の活動が現在の社会を形成しています。



シンポジウムの様子

4. シンとはいったい何か

「シン・外へ出ようや！」の「シン」とはいったい何か？これには様々な意味が含まれます。その一つが先程述べた「過去から現在」という意味。2009年に行われたシンポジウム「外に出ようや！」から現在への検証。そしてネクストジェネレーション。先人の想いを受け継ぎ、また次世代へと繋がって行くバトン。あと忘れてはいけないのが、猛威を振るったコロナウイルスから再起に向かって。コロナウイルスの脅威は、障害者・健常者関係なく、私たち

の生活を脅かしました。大会テーマである「シン・外へ出ようや！」は、運営に携わった兵庫頸髄損傷者連絡会の実行委員メンバーも去ることながら、参加された多くの皆さんも少なからず“シン”という言葉に関係していたのではないのでしょうか。

5. シンポジウム

シンポジウムでは過去と現在の公共交通機関の利用から社会の変化について、姫路市在住の田村辰男氏から基調講演という形で、その当時の様子やご自身で当時感じたことを伝えていただきました。

JR姫路駅の数名の職員に、電動車椅子を担いでもらって、ホームまでの階段を上り下りしていたこと。とある駅の職員に厳しく叱責されたこと。そのことにより、駅に近づくことが怖くなったことを含めて、田村氏の外に出て行った遍歴を知る機会となりました。



講演中の田村氏

次は、愛媛頸髄損傷者連絡会の三ツ井真平氏からの報告です。三ツ井氏はネクストジェネレーションという立場から、自身の海外での経験を話していただきました。三ツ井氏が海外の障害者との関わりの中で、障害者が海外でどのように見られているのか。また日本と海外の違いについて、いくつかのエピソードを交えながら報告していただきました。

最後の報告者は、九州頸髄損傷者連絡会の山崎忍氏です。ご自身が主に活動されている「NPO法人自立支援センターおおいた」での話を中心に報告していただきました。「ぶらり食べザキ」と称して様々な所で食べ歩きをされている様子を、ソーシャルネットワークで紹介されています。そこには物理

的なバリアがあったとしても、ココロのバリアフリーで解決する事例を報告していただきました。ただ悲しいことに、コロナウイルスが猛威を振るう中、便利になった面もあれば対照的に、以前はバリアフリーだった飲食店に入店出来なくなった事例を話していただきました。



パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、登壇者に向けての質疑応答から、より掘り下げた話を聞くことが出来ました。その中でも京都頸髄損傷者連絡会の皆さんからの活発な意見があり、会場の雰囲気も和やかなものとなりました。

6. まとめ

今回は私もパネルディスカッションのコーディネーターとして、事前の打ち合わせから抄録の依頼、調整等をさせていただきました。その中で日に日に全国大会が迫る中、不安と楽しみが入り混じっていました。何度もシンポジウムのイメージを繰り返して、とにかく楽しむことに努めようと自分に言い聞かせていました。そして大会当日、他の業務に追われる中、辿々しさはありましたがなんとか終わることが出来、安堵の思いでいます。

ただやはり、皆さんの話を聞いて思うことは一つ、悩み思い止まっても仕方がない、迷わずに進むこと。進む先には答えがあります。それはすなわち「外へ出ようや！」ということです。参加された皆さま、参加されなかった皆さまも「外へ出ようや！」を胸に、勇気を持って前へと進んで行ってほしいと感じました。

第51回全国頸髄損傷者連絡会総会 愛媛大会

日時：2024 年 6 月 8 日(土)～9 日(日)

場所：愛媛県松山市

愛媛頸髄損傷者連絡会では、次年度の総会に向けて準備を行っています。

2012 年に愛媛県で総会を開催し、すでに 11 年が経過しています。2012 年愛媛大会は愛媛頸損の体制が変わり、新メンバーとともに松山城登山を企画しました。あの時の経験は愛媛頸損メンバーの貴重な経験となり、再出発の起爆剤となりました。2017 年には香川県高松市で開催。四国全体で総会の運営を引き受け、香川・徳島の方々と交流を深めることが出来ました。3 支部で実行委員会を組織し、各地域の人材・規模・経験にあわせた運営を行いました。

2024 年の愛媛大会は、公益社団法人全国脊髄損傷者連合会の定時総会とシンポジウムなどを共有しながら開催します。また新たな経験を両団体メンバーと共に楽しみたいと思います。

ぜひ、愛媛県松山市に遊びにきてください。会員一同お待ちしております。

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田 336-2 (山下方)

TEL 0896-25-1290

e-mail : ehimekeison@gmail.com

<http://ehimekeison.blogspot.com/>

追悼 今西さんの背中を追って

全国頸髄損傷者連絡会 副会長 八幡 孝雄

全国頸髄損傷者連絡会の元会長で、長年、当会相談役を務めて下さった今西正義さんが、2023年1月31日逝去された。

私にとっての今西さんは、自慢の兄貴でした。もっと積極的に意見発信しないと駄目だと叱られてばかりでしたが、偉ぶることなく、多くの人に慕われ、常に周りから助言を求められるような人でした。

2007年12月、内閣府「アジア太平洋障害者の十年（2003～2012年）」中間年記念の、障害者関係功労者として、内閣総理大臣表彰されたが、自慢することなく淡々とされていた。それが今西さんでした。

今西さんは、障害者が自立可能な社会の実現に向けて、様々な分野の課題に率先して取り組み、経験に基づいた当事者視点からの意見を積極的に発信してくれました。

特に、公共交通機関や建造物などのバリアフリー化に積極的に取り組み、「東京2020オリンピック、パラリンピック競技大会」関連の施設、交通機関の整備、新国立競技場の建設には計画段階から働きかけを行い、多様な当事者を構成員としたユニバーサルデザインワークショップ（UD/WS）に参加し、我が国初の世界基準を満たしたスタジアムの実現に大きく貢献されました。

『何を食べたいか』でなく、『入れるかどうか』で店を選ぶしかない。飲食店を含め、人々が日常的に利用する場所のバリア解消が必要。障害者にとって移動の権利の確保は、社会参画に欠かせない重要課題。

誰でも、自由に、どこへでも出掛けることができれば、障害当事者にしか分からない社会の問題が浮かび上がってくる。ユニバーサルデザインだけでは対応が難しい障害や個別のニーズを持つ人たちがおり、バリアフリーデザインによる社会整備を求められることもある。そのためには配慮を必要とする人

たちの障害特性や日常動作について知る必要がある。

当事者が自分の目で見、改善に向けた具体的な提案を作ることが重要であり、街づくりでも、物づくりでも、計画の段階から各プロセスに当事者が加わり、評価し、提案していくという仕組みをしっかりとつくる必要がある。」

今西さんは上記のように、常々話されていました。

障害を持つ者が「他の者との平等」を実現するためには、権利が保障され、尊厳が守られる社会でなければならず、常に社会制度等を検証し、意見発信し続けることが大事で、止めたら望む社会は出来ないと、今西さんの背中を追ってきて学びました。



「誰もが使える公共交通機関」を求める
全国行動、東京中央集会場にて
1990年代の故今西正義さん（中央）

今西さんの功績を讃えるとともに、私たちは、その遺志を継いでいかなければなりません。

謹んでご冥福をお祈りいたします。 合掌

今西正義氏 追悼

全国頸髄損傷者連絡会 会長 鴨治 慎吾

今年の始め、今西正義さんが逝去された。

私が、初めて今西さんとお会いしたのは、25 年くらい前に新宿区にある戸山社会教育会館で行われた頸損連絡会の例会でした。当時、私はまだ入院中で、受傷してから初めての外出であった。また今思い返すと、頸髄損傷者と初めて話したと思う。

その時には、今西さんの他に故三澤さん、故菊地さんがいたことを覚えている。電動車椅子の話題になり、これがあれば大抵の所には行けると言われた事が強く印象に残っている。

この頃の私は、まだ何をしていけばよいのかも分からず、ただ治ることばかりしか頭になかった。しかし、この出会いが私にとっての最初の障害受容だったかもしれない。同じ障害を持った人が実際の社会で生活をしているのを見て、自分にも同じような生活することが可能だとも知った。この日をきっかけに、これからの生き方を考えられるようになった気がした。

これを機に、徐々に頸損連絡会に関わるようになり、自立生活をするための準備を始めた時にも、何かと相談しいろいろな事を教えてもらった。そのおかげで、地元で念願であった自立生活を始めることができた。



新宿区障害者福祉センターにて…故今西正義氏（中央）

自立生活を始めて、頸損連絡会などの活動に参加し始めた頃、その頃の障害者運動には、常に先頭には今西さんがいた。そして、その発する言葉は、常に現実を見据え、誰もがそう思えることばかりであった。特に建物や交通機関等に関する交渉事では、理路整然と私たちの主張を述べ、数多くのバリアを壊してくれたのではないだろうか。

私が知りうる今西さんは、全国頸髄損傷者連絡会顧問、DPI 日本会議バリアフリー部会顧問、バリアフリー障害当事者リーダー養成研修講師など様々な事をされていた。近年、東京 2020 オリンピック、パラリンピック競技大会においては競技場の改修に関しての会議など様々な会に参加されていた。特に印象に残っているのは、代々木の新国立競技場の監修に関しては、「67000 以上席があるのに車椅子席が少なすぎる。皆と同じように見る事ができなければいけない。」ただ使えるだけではなく、目的どおり使える事、使いやすさやなどを追及し、車椅子席 500 席、サイトライン（視野）の確保について等、新国立競技場をアクセシビリティの世界基準を満たした日本初のスタジアムの完成に大変貢献された。後日談であるが、実は 500 席でも少ないと言われていたらしい。さすが今西さんと思った。

その他にも民間初のトーコロソフトウェアハウスの立ち上げから関わり、障害を持った者でも就労ができることを示し、その後の障害者の就労及び在宅での就労の可能性を広げた方でもある。

その今西さんが言われていた事でとても印象に残ったことは、「障害者は生きていくうえでの選択肢が少ない。その選択肢を広げていくことによって更なる可能性が生まれる」である。

誰も今西さんのようにはなれません。ただし、一人一人が考えて、自分たちに必要なことを主張して行動して行けば、生きていくための選択肢が広がり、私たちの求める社会へ繋がっていくのではないのでしょうか。心からご冥福をお祈り申し上げます。

エレベーターの基準サイズ

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

2023 年 6 月 4 日に行われた総会の「頸髄損傷者を取り巻く現状と課題」の質疑応答の中で、「エレベーターの基準サイズはあるのか？」という質問がありましたので、後日調べてみました。

調べた結果を情報としてお伝えいたします。

世界的に統一されたエレベーターの基準サイズというものは存在していません。当然、エレベーターのバリアフリー基準サイズも決められておらず、あくまでも「これくらいのサイズが望ましい」という表現にとどめてあるのが実際です。

しかし、アクセシブルな環境整備を促進することを指針として示したガイドラインはあります。国際パラリンピック委員会（IPC）が、障害者権利条約の理念を反映した、国際的なアクセシビリティガイドを作成しています。オリンピック・パラリンピック開催都市の整備基準として活用できるよう IPC は公表しています。そして、IPC アクセシビリティガイドの整備基準に準拠したパラリンピック開催国の整備ガイドを作り、IPC に提出して、認可を受けてから開催国のバリアフリー整備がなされる仕組みとなっています。東京オリンピック 2020 の際にも、「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」が作成され、その基準を取り入れた形で整備されたのが「新国立競技場」です。

<参考>

◎日本パラリンピック委員会 HP（英語版、日本語版のアクセシビリティガイド公開）

<https://www.parasports.or.jp/paralympic/what/data.html>

◎IPC アクセシビリティガイド（日本語）

https://www.parasports.or.jp/paralympic/what/pdf/ipc_accessibility_guide_ja2.pdf

◎Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン

<https://gtimg.tokyo2020.org/image/upload/production/u5n3gbxl3bbg1fv6uskk.pdf>

上記、IPC アクセシビリティガイドにエレベーターの項目がありますので、これが世界的な整備基準とすべきものではないでしょうか。Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインは、IPC アクセシビリティガイドに準拠して作成されたものであるため、日本においてはこのガイドラインが整備基準と言えます。エレベーターについて、Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインに示されていますので、詳しくはガイドラインをご覧ください。中に、エレベーターのかご寸法が参照表で示してありましたので、抜粋して掲載しておきます（Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン、主要寸法参照表 41 エレベーターのかご）。

最後に、日本は障害者権利条約を批准した国ですが、未だその域には達していません。権利条約の理念に則った法整備や、社会環境整備を当事者参画のもとに進める必要があります。我々は、人任せにすることなく、政府や公共政策を監視していかなければ、日本のバリアフリー、アクセシビリティの歴史が逆行しかねません。共生社会の実現に向けて、環境整備に取り組みましょう。

主要寸法参照表 41 エレベーターのかご

選手村の 宿泊施設 (屋内)	宿泊施設を除く 大会会場施設 (屋内)	選手村含む 大会会場敷地 内の 屋外通路	アクセシブル ルートとなる 道路の歩道	アクセシブル ルートとなる 公共交通 機関の施設 (駅・港湾施設 等の構内)
幅 2,100mmx 奥行き 1,500mm 又は同等水準 の サイズ★1 (推奨:IPC) 幅 1,700mmx 奥行き 1,500mm 又は同等水準 の サイズ★2 (標準:IPC)	幅 2,100mmx 奥行き 1,500mm 又は同等水準 の サイズ★1 (推奨:IPC) 幅 1,700mmx 奥行き 1,500mm 又は同等水準 の サイズ★2 (標準:IPC) *1	対象外	幅 2,100mmx 奥行き 1,500mm 又は同等水準 の サイズ★1 (推奨:IPC) 幅 1,700mmx 奥行き 1,500mm 又は同等水準 の サイズ★2 (標準:IPC) *2	幅 2,100mmx 奥行き 1,500mm 又は同等水準 のサイズ★1 (推奨:IPC) 幅 1,700mmx 奥行き 1,500mm 又は同等水準 のサイズ★2 (標準:IPC) *3 *上記推奨 基準について は、1基のかご の有効寸法が 基準に満たな い場合でも、 2基目を増設し 全体の容量で 基準を満たす ことも認める。 ただし2基目 は、標準以上の 有効寸法を 満たすものが 望ましい。
<参考値> JIS規格の場合 ★1 幅 2,150mmx 奥行き 1,600mm(24 人乗り) 又は 幅 2,000mmx 奥行き 1,750mm(24 人乗り) ★2 幅 2,000mmx 奥行き 1,350mm(17 人乗り) 又は 幅 1,800mmx 奥行き 1,500mm(17 人乗り)				

*1 幅 1,400mm×奥行き 1,350mm

(例外:国基準、不特定多数が利用する 2,000 m²以上の建築物)

*2 幅 1,500mm×奥行き 1,500mm(例外:国基準)

* 貫通型の場合は幅 1,400mm×奥行き 1,350mm(例外:国基準)

*3 幅 1,400mm×奥行き 1,350mm(例外:国基準)

利用者が多い場合は幅 1,600mm×奥行き 1,500mm(例外:国基準)貫通型や直角二方向出入口型エレベーターで、車いす使用者が円滑に乗降できる構造と開閉するかごの出入口を音声で知らせる設備がある場合は、上記例外規定を免除。

Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインから抜粋、2.1.8 エレベーターとエスカレーター、

2.1.8.1 エレベーター、2.1.8.1.3 かご、主要寸法参照表 41 エレベーターのかごを引用

事務局からのお知らせ

全国頸髄損傷者連絡会事務局

○2023 年度役員体制

全国頸髄損傷者連絡会 2023 年度総会は、6 月 4 日（日）10：00～12：00 の日程で、一部の議案は審議できず臨時総会に持ち越すことになりましたが、会員の皆様のご協力のもと、ほとんどの議案に対して承認いただき無事終えることができました。その中でも、2023 年度の役員体制についてご報告いたします。会長・鴨治慎吾（東京）（再任）、副会長・八幡孝雄（東京）（再任）、村田恵子（京都）（再任）、井谷重人（愛媛 次期総会開催担当支部）（新任）、事務局長・宮野秀樹（兵庫）（再任）、編集長・宮野秀樹（兵庫）（再任：兼任）、会計・三ツ井真平（愛媛）（再任）、会計監査・毛利公一（香川）（新任）、相談役・三戸呂克美（兵庫）（再任）、坂上正司（兵庫）（再任）、以上の体制で運営を行っていきます。特に、長年会計監査として務めてくださった三好宏和氏（愛知）に代わって新たに毛利公一氏（香川）が就任されました。本年度は、このメンバーで全国頸髄損傷者連絡会の活動発展のために努力してまいりますので、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。なお、総会資料は、下記サイトから PDF がダウンロードできますのでご覧ください。

URL：https://k-son.net/soukai/

○本部会員への所属移管手続き開始

本年 3 月 31 日をもって神奈川支部が活動を休止したことにより、現在、神奈川支部の会員で会員継続を希望される正会員に対して、所属を本部へ移管する手続きを行っています。神奈川支部の会員様には、手続きの案内を郵送しています。WEB での登録も可能です。電話での手続きも受け付けています。郵送された案内をいま一度ご確認ください、お手続きくださいますようお願いいたします。

【移管用サイト URL】 <https://k-son.net/honbunt/>

【本部会員移管に関するお問い合わせ】

◆全国頸髄損傷者連絡会事務局（担当：事務局長・宮野秀樹）

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 1-1-1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL：079-555-6022 Email：jaqoffice7@gmail.com

○秋の代表者会議開催場所

秋の全国代表者会議は、2023 年 9 月 3 日（日）に岡山県岡山市においてハイブリッドでの開催となることを前号のお知らせで案内いたしましたが、会場が決定しましたのでお伝えいたします。

【日時】2023 年 9 月 3 日（日）13：00～16：30

【場所】岡山国際交流センター 3 階 研修室

近隣にお住まいの頸髄損傷者、どのような会議を行っているか興味のある方はご参加ください。

○全国脊髄損傷者連合会との意見交換会報告

全国頸髄損傷者連絡会と全国脊髄損傷者連合会で、両団体の共通した課題解決や親交を深めること、連携体制強化を目的とした意見交換会を行っております。共通する課題解決を目的とした勉強会の実施（排泄問題、高齢障害者 65 歳問題、職場介助サービス問題等）やお互いが開催するイベントに参加しあうことなどが検討されています。会員の皆様も、取り扱ってほしい問題、ご意見などがありましたら、事務局までお寄せくださいますようお願いいたします。

有料道路が障がい者割引制度・対象となる自動車の範囲変更

家族、親戚の乗用車・タクシー・レンタカーなど使用時に有料道路料金が割引可能に

全国頸髄損傷者連絡会 事務局次長 鈴木 太

はじめに

2023年3月27日より有料道路における障害者割引制度の見直しが行われ、今まで障害当事者一人に一台の自家用車を事前登録して、高速道路・有料道路の割引が可能だったものが、自家用車をお持ちでない方が知人の車やレンタカーを利用する場合や、介護が必要な重度の障害者の方がタクシーを利用する場合など、事前登録がない自動車でも新たに割引の適用となります。

あわせて、今まで市区町村の福祉担当窓口において自家用車を事前登録のうえ ETC 利用申請していましたが、オンライン申請が可能になりました。(マイナンバーカード・読み取り用スマートフォン必要)

割引を受けている方の利用方法

現状、自家用車の登録を行い、有料道路の割引を行っている方はとくに申請の必要はありません。

○登録車両での通行

登録車両で有料道路を利用の場合は今まで通り ETC レーンを使い、登録車両で割引を受けます。

○登録車両以外での通行

登録以外の車両を利用し有料道路の割引を受ける場合は、ETC 専用レーン以外を利用し料金を支払う料金所において一旦停止いただいたうえで、係員が障害者手帳の記載事項等と障害者本人の同乗（本人運転又は介護者による運転）の確認等を行います。タクシー等の利用ではまだ事業所も対応経験が少ないため、予約時又は乗車前に有料道路の障害者割引を利用する事を伝え、タクシー事業者等に対応可能かを確認してください。

これから割引を利用したい方

現状、有料道路の割引を行っていない方は新規に割引申請が必要です。手帳を管理している市区町村の福祉担当窓口において、必要事項を記入した「有

料道路障害者割引申請書兼 ETC 利用申請証明書」を提出する必要があります。申請後発行される割引対象である旨を記載したシールを障害者手帳に貼付けて手続きが完了します。その後は、現在割引を利用して登録車両以外で通行する方と同じ利用方法になります。

車種要件

	2023年3月 27日まで	これから
登録済み乗用自動車	○	○
申請未登録乗用自動車	×	○
レンタカー	×	○
タクシー	×	○
福祉有償輸送	×	○

※車種要件については一例です、詳しくは各運営会社のホームページなどで確認してください

オンライン申請が可能になりました

自家用車を事前登録のうえ ETC 利用申請される方が対象ですが、これらの有料道路障害者割引の申請が、今回の見直しと同時にオンラインで申請可能となっています。マイナンバーカードや『マイナポータル』および『マイナポータルアプリ』との身体障害者手帳・療育手帳情報の連携スマートフォンが必要にはなりますが、市区町村の窓口へ足を運ばなくても申請可能です。

詳しくは有料道路における障害者割引制度のオンライン申請ホームページをご覧ください。

<https://www.expressway-discount.jp/>

京都支部の活動紹介

特定非営利活動法人京都頸髄損傷者連絡会 山中 泰紀

◎支部紹介

特定非営利活動法人京都頸髄損傷者連絡会は、1982 年に設立されました。現在 39 名の方が在籍しております。設立当初から「より重度な障害の方の暮らしを支える、重度な障害者が地域で暮らせる」ということは誰でも暮らしやすい社会」という今も変わらない思いで活動しています。また、2004 年には特定非営利活動法人(NPO 法人)も取得いたしました。

◎定例会

毎月第一土曜日には、京都支部が取り組んでいる様々な諸問題やイベント開催についてなどを、会員が集まり意見交換を行っています。基本的には対面で集まって行っておりますが、コロナ禍では zoom を使用してオンライン開催していました。現在は対面とオンラインでのハイブリッド形式で体調に合わせて、より参加しやすい形で開催していますので、お気軽にご参加いただけたらと思います。

京都支部ホームページからも定例会 zoom アドレスをお申し込みいただけますので、ご参加ご希望の方はホームページまでアクセスください。

京都支部ホームページ : <http://keison.moo.jp>

◎機関紙

年 4 回を発行目標に機関紙「頸損ニュース」を発行しています。京都支部で開催しましたイベント報告、定例会で話し合われた議事録などを掲載しています。なかなか会の活動にご参加いただけない会員さんにも頸損ニュースを楽しみにされている、というお声もお聞きして、継続して発行することの意義を感じています。

◎京都支部定期総会

毎年 4 月には京都支部定期総会を開催しております。NPO 法人として京都市に書類提出があり、活動報告、収支報告、次年度の活動計画などを会員の皆様にお知らせし報告しております。

◎BBQ 交流会

会員や他団体との交流会の場として、毎年 5 月ま

たは 6 月に BBQ 交流会を開催しております。以前は、河川敷で開催していたこともありましたが、最近では関係団体施設のスペースをお借りして開催しております。今年は 6 月 25 日(日)に開催されました。当日は気温が高くて、頸損には厳しい気候となりましたが、久しぶりの開催とあって会員さんを始め交流がある団体の方々、介助者等、合わせて 50 名を超える参加があり、賑やかな BBQ 交流会となりました。お肉やお野菜、締めには焼きそばがあり、施設のご厚意でスイーツもいただき、皆さん大満足な感じでした。日頃、お会いできない会員さん同士の交流もあり、対面でできる嬉しさを感じました。来年以降も多くの方の交流の場となればと思います。



◎夏の懇親会

毎年 8 月に会員が集まり懇親会を開催しています。残念ながらコロナ禍で 3 年余り開催できていませんが、暑い時期の英気を養うという目的で楽しいイベントの一つです。



◎京都市行政懇談会

京都市に年一回、防災や障害福祉サービスなど私たちを取り巻く諸問題について要望書を提出し、意見交換として行政懇談会を開いています。

◎地域移行サポート

病院に入院している当事者のご家族や医療関係者、他府県で生活されている当事者で障害福祉サービスが充実していない地域の方からお問い合わせをいただき、お話を聞きながらご本人のより良い生活になるようにサポートをしています。

◎大阪頸髄損傷者連絡会合同交流会

毎年秋に大阪頸髄損傷者連絡会と合同交流会を開催しており京都支部、大阪支部と交互に企画を考えています。ボーリング大会、たこ焼きパーティー、カラオケ大会など楽しいイベントで盛り上がりました。最近ではコロナ禍で中止が続いていますが、大阪支部の方と交流できることを楽しみにしております。



◎京都市交通局意見交換会

日本自立生活センター（JCIL）と合同で、京都市交通局に京都市営地下鉄と京都市営バスの様々な課題などを話し合う意見交換会を実施しています。ホーム柵や車両との段差解消など、全ての人が安心して利用できる公共交通機関になるように毎年要望しています。

◎全国脊髄損傷者連合会京都支部合同研修会

2 年前の全国頸髄損傷者連絡会総会・京都大会を全国脊髄損傷者連合会京都支部の方々と共同開催を

きっかけに、合同研修会を開催することになりました。昨年は、私も悩んでいました「車いすシーティング」について勉強させていただき、自分の座骨の体圧を測定したり、クッションなどの工夫で座り方の調節などを知れて大変良かったです。今年はスマートスピーカーの活用法の研修などを予定しています。

◎新年会

毎年 1 月に会員の交流の場として新年会を開催しています。例年は関係団体の施設の一室をお借りして、オードブルやお寿司など食べきれないお料理がでます。2023 年はキャンパスプラザ京都で開催しました。YouTube 動画配信されている会員さんの動画を鑑賞したり、イントロゲームで盛り上がりました。



◎最後に

支部紹介のところで当会設立は 1982 年とありましたように、京都頸髄損傷者連絡会ができて 40 年を越えました。本来ですと昨年、設立 40 周年記念イベントを開催する予定でしたが、残念ながらコロナ禍で延期をいたしました。改めまして今年 10 月 28 日（土）に京都頸髄損傷者連絡会設立 40 周年記念イベントを開催いたします。

当日は、当会にゆかりのある方のご講演や京都支部の歩みなど、40 年に渡り活動してきました京都頸髄損傷者連絡会を振り返っていただきながら、盛大に開催したいと思いますので、ご都合がよろしければ多数のご参加をお待ちしております。

また今後とも京都支部では楽しいイベントや活動を企画していきますので、皆様よろしく願いいたします。

To be yourself 65歳問題 開催報告

今のところの最善策は事前準備です

全国頸髄損傷者連絡会 事務局次長 鈴木 太

第8回「To be yourself」65歳問題

2023年5月7日(日)13:30~15:00、Zoom ミーティングを使い、第8回「To be yourself」65歳問題の1回目を開催しました。進行役に丸岡稔典氏(四天王寺大学)と私に加わり、話題提供者として島本義信氏(大阪頸髄損傷者連絡会)を迎え、介護保険移行に伴う様々な問題をディスカッションの中で情報共有するために開催しました。

22名の参加登録があり、当日は20名近くのオンラインでのディスカッションになりました。

介護保険移行経験者より

まずは何よりも経験者の話を聞いてみようということで、介護保険に移行して数ヶ月という島本氏からどの様に介護保険移行に向けて準備を行ってきたかの報告を頂きました。

今まで慣れたヘルパーさんがそのまま来てもらうことが出来ないかもしれないということで、数年前からヘルパー事業所とは打ち合わせを行い、障害福祉サービスの提供しか行っていなかったところを介護保険サービスも提供してもらえよう準備したそうです。しかし、介護保険の認定区分で認められるサービス量が今まで利用できていたヘルパーサービスより少なくなるため、移行前から行政に自分で作った資料を提出したそうです。現在は入浴周辺のサービスを介護保険で、朝・昼・夜のサービスは障害福祉でまかなっているということでした。

準備は大切

この様に事前準備を行っていた島本氏ですが、この様な問題に真剣にまずいと感じたのは60歳を過ぎてでした。移行者に、今まで通りに生活できない、負担が増えると聞いていたが、「直前になるまで考えようと思わなかった」という発言が受ける側にも準備が必要であるということをお話していると感じた。

第9回「To be yourself」65歳問題2

2023年7月16日(日)13:30~15:00、Zoom ミーティングを使い、2回目の65歳問題を考えるディスカッションを開催しました。前回同様、進行役に丸岡氏と私、話題提供者に島本氏を迎え、介護保険移行に伴う様々な問題をディスカッションの中で情報共有するために開催しました。

18名と登録があり、18名でディスカッションを行いました

移行に伴う利用料負担

島本氏より介護保険サービスと障害福祉サービスを併用したら生活が始まり、サービス利用料の請求がはじまったということで報告を頂きました。双方の利用料をあわせ三万を越える自己負担となったそうです。今までは障害福祉サービスで一万以内だったものが、大きく増えた現状報告がありました。あわせて、介護保険ではケアマネジャーの月一回の訪問が義務づけられているため、その訪問にあわせたスケジュール調整が意外と煩わしいという事でした。

ディスカッションを重ねて

今回は参加者にも発言を頂きました。準備に入っている人、すでに移行されている人、ヘルパー事業所運営に関わる人と様々な方から報告がありました。

65歳になっても居宅介護・生活介護(障害福祉)のみで生活されている方もいらっしゃいました。前回では、重度訪問介護利用者の利用実態しか把握できなかったため、少し利用の実態把握に近づくことが出来ました。

参加のお願い

介護保険移行は様々な弊害もありますが決して問題ばかりではありません。現状把握が出来ていないことが問題ですので、集まりにぜひご参加下さい。

介護保険制度について考えよう

使い次第ではメリットもあるサービスなんです

全国頸髄損傷者連絡会 事務局次長 鈴木 太

はじめに

今まで 65 歳問題、介護保険サービスへの移行を取り上げてきました。それと同時に、全国頸髄損傷者連絡会が実施するオンライン開催のディスカッションの場「To be yourself」でも 65 歳問題を取り上げてきました。

今までのディスカッションや聞き取りで介護保険へ移行された方から見えてきたことは、

- ・重度訪問介護利用者は、介護保険サービスに変わるものが無いため生活が変わっていない人が多い
- ・サービス事業所が変わらない場合は大きな問題が出てきていない
- ・福祉用具レンタルは利用しやすい
- ・自己負担が増えている

大きくこの様な点がメリット・デメリットとして上がってきています。

移行はマイナスばかりではありません

この場でも「備える・準備・考える」などと介護保険移行の問題記事を掲載してきました。しかし、決して介護保険サービスが悪いものであるということではありません。どうしても「生活が変わる・費用負担が増える」といったマイナス要素が前面に出ています。

介護保険制度は 40 歳から 64 歳までの方に保険料を負担していただき、65 歳から必要になった方を支える制度です。2000 年からはじまり、体制はしっかり出来ていて、都会・地方にかかわらず様々な事業が地域で展開されています。ケアマネジャーの存在も大きく、ケアプランや給付の管理、福祉用具の選定など幅広い調整を行ってくれます。

福祉用具についてもレンタルとなりますが基準が設けられていて、費用の 1～3 割負担で利用することが出来ます。買い取りではないので、搬入・設置・修理・撤去などケアマネジャーと福祉用具貸与事業

者の方々にサポートしてくれます。

どうして問題になるの

ではどうしてこんなに問題になるのでしょうか。介護を必要とするという点では、障害福祉サービスも介護保険サービスも同じなのかもしれません。生活は何も変わっていないのに 65 歳になるといきなり制度が変わり、自分にとってのメリット・デメリットの把握が出来づらいというところが一番の問題なのだと思います。

それに加えて、障害福祉（相談支援専門員）介護保険（ケアマネジャー）が、当事者が抱える問題について明確に回答が出来ない点も不安になってしまっています。

情報が無いまま、周りから進められる状況にただ従うことが不安に感じてしまうのです。

問題解決に向けて

頸髄損傷者の多くは高齢になって介護が必要になったのではなく、障害特性でもともと介助を受けながら日常生活をしてきました。だから 65 歳になっても 65 歳前と同じ生活を継続したいというのは誰しも思うことです。制度開始の頃は多くの問題が持ち上がり、サービス停止や費用負担の問題が持ち上がりました。

しかし、現在では介護保険と障害福祉の適用関係について、「一律に介護保険サービスを優先的に利用するものではなく、申請者の個別の状況に応じ、申請者が必要としている支援内容を介護保険サービスにより受けることが可能かを判断」となっています。高齢障害者の利用者負担軽減制度も始まりました。これらの点からも、多くの情報に触れ、福祉サービスにあわせて、このサービスでこんな生活をしたいと伝えていくことが、自分らしい生活を組み立てる事になるのではないかと感じています。

どうなる？ゲームアクセシビリティ

一般社団法人日本支援技術協会 田代 洋章

e スポーツの盛り上がり

ここ数年、テレビをはじめ各メディアで「e スポーツ」について報じられることが多くなりました。ご存知の方も多いかと思いますが、東京オリンピックの直前から国際オリンピック委員会が「オリンピックバーチャルシリーズ」と題して e スポーツイベントを実施していたり、国体でも「全国都道府県対抗 e スポーツ選手権」が開催されています。

障害のある人と e スポーツ

前出の「全国都道府県対抗 e スポーツ選手権」の“ふよふよ e スポーツ部門”では障害のある人が利用するコントローラや表示の工夫等、利用デバイスについて配慮があり、障害の有無に関係なく出場が認められています。既に何人もの障害のある人がエントリーして対戦しています。ある人は、頬に設定した小さなボタンスイッチと口元のジョイスティックで操作したり、ある人は 4 つの小さな軽いスイッチを両指と口元で操作したりと工夫はさまざまです。



このように e スポーツは、ICT デバイスのアクセシビリティを高めることで多くの人の参加が可能になります。リアルスポーツに比べて簡単にフラットな競技の場が設定できて、障害のある人もない人も一緒に対戦することができます。

現在、全国各地で障害のある人の e スポーツの取り組みが始まっています。e スポーツにチャレンジすることによって、デバイスの操作スキルが上がったり認知機能のレベルが上がったりと学習や就労にも大いに役立つと考えられているのです。

操作デバイス

e スポーツに使われるゲームは PC やスマホをプラットフォームにした物や Nintendo Switch やソニー・インタラクティブエンタテインメント (以下 SIE) の PlayStation®, Microsoft Xbox などの専用プラットフォームを利用する物が存在します。では具体的にどんな操作デバイスを使えば、障害のある人の身体的特性に合わせられるかを紹介します。



ゲームをプレイするにはコントローラが必要ですが、多くの場合、両手で持ちながら指先でジョイスティックと押しボタンスイッチを操作します。指を含め上肢がうまく使えない人のためには標準のコントローラに代えて、外付けのジョイスティックが接続できたり、大小さまざまなスイッチを接続できたりするアクセシブルなコントローラが必要となります。現在、そのようなコントローラは 3 種類あります。

	マイクロソフト	任天堂	ソニー (SIE)	
	Xbox	Nintendo Switch	Play Station 5	PC
<u>Xbox Adaptive Controller</u>	○			○
<u>Flex Controller</u>		○		○
<u>Access コントローラー (近日発売)</u>			○	



↑ Xbox Adaptive Controller



↑ Flex Controller



↑ Access コントローラー

どのコントローラも外部にスイッチやジョイスティックを接続できるので、頸髄損傷の方の多くが利用しているチンコントロール方式でプレイすることができます。

共同プレイ

これらのアクセシブルなコントローラは外部に操作スイッチやジョイスティックを接続できるので、一人のプレイヤーを複数の人が役割を分担してプレイすることができます。認知面に困難があったり、動きに大きな制限があったりした場合にも、分担された役割での参加が可能になります。見ているだけの

ゲームからプレーヤーとして参加できるゲームへ変えることができます。

ゲームアクセシビリティの向上

ゲームアクセシビリティは、前出のようなデバイスの登場によって大きく向上しました。さらに、ゲームソフトの中にもアクセシビリティに配慮した機能が組み込まれるようになってきました。色合いや文字の大きさ、字幕の表示、更には登場するキャラクターで義足が選べたりするものもあります。マイクロソフトではゲーム開発時のアクセシビリティガイドラインが制定されていますし、先日 Access コントローラーを発表した SIE では、できるだけゲームの開発初期段階からアクセシビリティに取り組み始めることをルール化しており、ゲームによってはアクセシビリティ設定項目が 70 種類以上用意されています。世界ではユニバーサルでアクセシブルなものづくりが標準になりつつあります。

人材の必要性

このように障害のある人の e スポーツへの参加の敷居はかなり下がったと思われます。是非、みなさんもチャレンジして楽しい暮らしを実現してみたいです。

でも課題は「誰がそれを提案して設置してサポートしてくれるのか」でしょう。これは何も e スポーツに限ったことではなく、パソコン、タブレット、スマートホンなどの ICT デバイスに加え、スマートスピーカーやスマートディスプレイなど近年のデジタル家電機器についても同様の課題があると考えます。

当協会では「ICT アクセシビリティアドバイザー（名称変更予定：デジタルアクセシビリティアドバイザー）」認定試験を実施して、障害のある人のデジタル環境をコーディネートできる人材を育成しております。まだまだ始まったばかりですが、ご関心のある方は是非コンタクトしてください。

■お問い合わせ

一般社団法人日本支援技術協会

URL : www.jatc.jp MAIL : office@jatc.jp

編み物を諦めていたが、指が硬直していても編める優れ物！

アンデミルミル

兵庫頸髄損傷者連絡会 R.M

私は車の事故で頸髄損傷のレベル（C4～6）両手（指）に拘縮があります。両腕はオデコから腹部くらいまでの上下が出来ます。当時、障害者スポーツ大会に出場する事になり指導して下さった監督とコーチ。そして、お世話になった人や恋人にプレゼントをしたいと思い、相談させて頂いた兄の奥さんの母様からの提案で「ハマナカアンデミルミル」を知り、自助具と鉤針を使用し、チャレンジした事がきっかけで、事故後に初めてマフラーを編む事が出来ました。マフラーの残りの毛糸で、就寝時用の手袋も編む事が出来ました。私が使用しているアンデミルミルは、黄緑色の板で長板4枚・中版2枚・小判2枚の合計:8枚の板が入った物を使用しています。

今は、アクリルタワシも編んでいます。アンデミルミルの種類によって板の大きさや形が違うみたいです。アンデミルミルは立体的な針山に編み糸を掛けて行くだけで編め、鉤針でも素手でも編めます。



← 私はパソコンを打つ用の自助具へ鉤針を挿入し固定して編んでいます。自助具を「洗濯中」の時はバンダナ等で代用。固定して編みます

まず、ジグザグに毛糸を一周していきます。二週目で重なる毛糸が出てきます。重なる毛糸の部分は既に有る毛糸を包み凸出て居る凸部分へ引っ掛けます。この時、手前ではなく向こうへ毛糸が行くようにひっかけていきます。ひたすらに、この作業を続けるだけです。



最後の折り返し時点で毛糸が解けないように、長めの毛糸を残しヘルパーさんに切って頂きます（一周するくらいに私は毛糸を残しています）。その残した毛糸を最後の編み穴に切った毛糸の先を全て通していきます。絶対に通し忘れが無いように注意して下さい。最後の最後に残った毛糸を解けないように、何ヶ所か目立たないように違う穴へ通していきます。最後の最後に違う糸に絡ませ結び、目立たないように周辺の毛糸へ内から外からと入れ結び、ヘルパーさんにハサミで切って頂き終了しています。



← 左の写真は初めて自分で編んだマフラーです。当時、付き合ってた人にプレゼント！

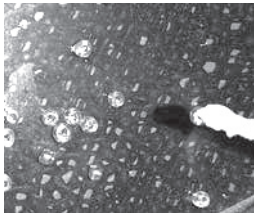
今は、お揃いにした事を後悔している
(涙) (笑) (涙)

右の写真は上の余り糸→
使用して編みました～！
就寝時に腕を入れ寝ます
コレが、暖かいんです！
朝も両手はポッカポカ！

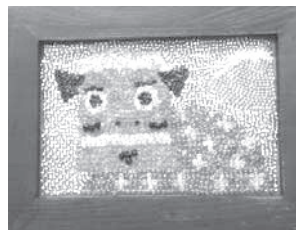
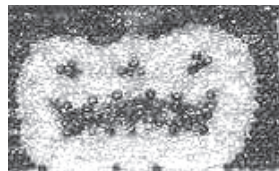


更に！一人暮らしをしてから 新たな地域の方々と交流を持つ場に参加しました。そこで、何と！私の出来る事が見つかりました。この参加がきっかけで自分の趣味・出来る事が見付かったんです～！♪！
それはですね！ビーズで作るマグネットや画です。

必要な物：自助具・鉤針・爪楊枝・ボンド・セロハン



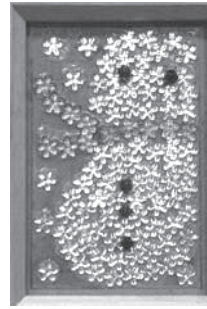
鉤針の先にセロハンテープで爪楊枝を固定し、爪楊枝の先に少しボンドを付けビーズを一粒ずつ付け運び、貼って行きます



下書き等は自助具に鉛筆を挿入し自分で薄く書いています

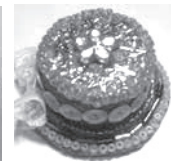
土台の帽子はヘルパーさんに作って頂いています！

帽子のマグネットは、土台となる大きさの厚紙にペットボトル蓋をボンドで貼り付け、乾かします。乾いたら麻糸を土台にグルグルとボンドで貼り付けていきます。厚紙の端の方まで貼り付けたら、延長で厚紙の裏の方へグルグルと貼り付けて行き、マグネットが貼り付けられるよう真ん中は少し開けておきます。最後に、マグネットを土台の裏の中心に両面テープとボンドでしっかりと付けて固定します。土台が完全に乾いたら、麻糸へ自分流にビーズやスパンコールなど自分の思う所にボンドで貼り付けて行き完成となります。

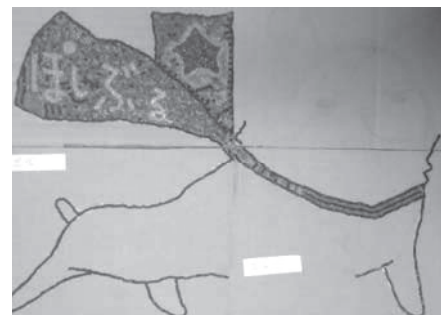
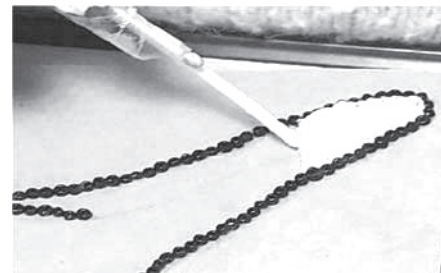
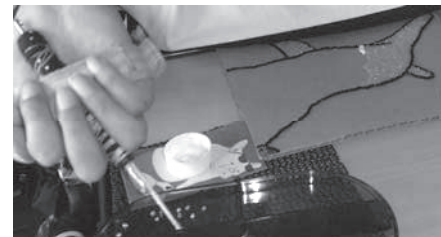


↑ 写真立てに直接、ボンドで貼り作成 ↑

自作品：マグネット



↓ 只今、作成中 ↓



電動車椅子の航空機搭乗手続きの諸問題について

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

はじめに

新型コロナウイルス感染症が、感染症法上において 2 類から 5 類に引き下げられたことで、社会的にも外出自粛ムードが緩和し、会食や旅行を計画して実行する人たちが増えています。頸髄損傷者を含む障害者にとって、完全に安心できる状況ではありませんが、新型コロナウイルスに感染しても必ず重症化する危険性は薄れてきたので（特定疾患を有する場合を除く）、旅行を計画する頸髄損傷者も増えてくるのではないのでしょうか。かくいう私も、本年 3 月に台北市（台湾）までバリアフリー調査旅行に出かけて以降、毎月 2 回は県外へ出張に行くようになりました。油断は禁物ですが、個人的な見解では、予防を怠らなければ感染のリスクは軽減できるのではないかと考えています。できれば皆さんに、国内旅行や海外旅行に出かけてもらいたいと思っています。

遠方への旅行となると『航空機』を利用する機会があると思います。その際には我々が抱える「航空機搭乗の際の諸問題」が旅の快適さを欠く原因になるかもしれません。本文では、航空機利用手続きを円滑にするための情報を提供したいと考えています。といっても、この情報で確実に問題なく航空機を利用できるわけではありませんので、その点はご了承ください。あくまでも参考として情報を活用してください。

電動車椅子の搭載手続き問題

航空機利用でいつも問題になるのが、「電動車椅子の搭載手続き問題」です。搭乗手続きの際には、各航空会社のスペシャルアシスタンス専用デスクで、事前に車椅子の寸法、重量、バッテリー種別等の情報を登録しておいても、航空会社カウンターでのチェックイン時の航空会社職員によるチェック、保安検査場での検査員によるチェックと、複数回のチェック（書面確認、目視等）が求められるという問題があります。チェックが必要であることは認識してい

ますが、同じ質問、同じチェックが繰り返され、それに対して相当な時間を要するとなると、電動車椅子使用者の心身に大きな負担がかかります。私も、予約の際、車椅子のサイズやバッテリーの種類に加え、バッテリーが目視できないことや、空港内・機内移動用車椅子への乗り換え・座席への乗り換え時のお手伝いの必要人数等を伝えているが、その多くが情報共有されていない場面によく遭遇します。チェックインカウンターで再説明するケースが多々あるため、「事前登録情報はなんだったのか？」と文句を言いたくなることがあります。特に、私が使用している電動車椅子は、搭載しているバッテリーが目視できない構造となっているため、事前にバッテリーの種類やメーカーなどを各航空会社の専用デスクに詳しく伝えています。しかし、その情報をもとに、確認を簡素化してくれる場合もあれば、目視にこだわり、手続き完了まで長時間を要する場合があります。確認作業に協力するため、搭載しているバッテリーの資料（メーカー、種類等）やバッテリーボックスを閉じる際にバッテリー本体とバッテリーに書かれている表記を撮影した写真をチェックインカウンターで提示しますが、それで納得する担当者もいれば、それでもなお目視にこだわり、結果、何を確認したいのかよくわからないまま時間だけを要した上で手続きを完了する場合があります。担当者が違えばその対応も様々であり、「航空機の操縦士からの指示でチェックが必要である」との説明をされることもあります。その大半が障害者自身にストレスを与える対応となっているため、目視を基本とする現行の航空法の改善や過度にチェックを求めることの改善をお願いしたいところです。

ただし、前述したような悪い対応ばかりではありません。昨年 12 月に中部国際空港（セントレア）で開催された「日本身体障害者補助大学会・航空関係者向け車いすセミナー」に参加した際に、電動車椅子メーカーが、各社の電動車椅子の情報で、航空

機へ搭載する際や手続きの際に必要なとする情報をホームページに掲載しているという情報を入手しました。大変素晴らしい取り組みであると思い、中心となって各メーカーに呼びかける活動を行ってくださった「一般社団法人日本車椅子シーティング協会（JAWS）<https://www.j-aws.jp/>」の事務局の方に、この取り組みに至った経緯を尋ねました。やはり、各航空会社も電動車椅子の搭載手続きを改善したいと考えているそうです。どのようにすれば改善できるか？という相談が日本車椅子シーティング協会に寄せられ、まずは協会の会員である各電動車椅子メーカーに協力いただき、必要な情報を各社のホームページに掲載することになったそうです。上記の日本車椅子シーティング協会のホームページの右側下部にある「航空会社の方へ 搭載バッテリーの確認」をクリックすると、各電動車椅子メーカーのサイトの電動車椅子使用に関する情報のページに直接アクセスできるリンクのページが設置されています。よろしければ、皆さんの使用している電動車椅子メーカーのサイトを覗いてみてください。この情報を予約時に伝えておくか、チェックインカウンターで伝えると、搭載手続きが簡略化されるようです。

ちなみに、この情報の効力を検証すべく、大手航空会社 2 社で私自身が試してみました。結果は 4 勝 4 敗でした（笑）。それでも嘆くことはないと思っています。航空会社も電動車椅子メーカーも、我々が問題としていることに対して、改善しようと取り組んでくれているのですから。多くの電動車椅子使用者がこの情報を活用して、搭載手続きを行っていくと、改善は進むのではないのでしょうか。

問題が改善していく兆しはある

各航空会社では、「スペシャルアシスタンス登録サービス（日本航空 JAL）」「おからだの不自由な方の相談デスクへの情報登録（全日空 ANA）」等、障害者を含む配慮が必要な方への専用デスクが設けられています。前述では、「問題あり」の情報を述べましたが、実は、最近は各航空会社の対応もよくなってきたと感じることが多くなっています。JAL は以前から、スペシャルアシスタンス情報を登録している

プライオリティ・ゲストカードを発行し、自身の障害の内容や電動車椅子のサイズやバッテリー情報を登録しておくことにより、手続きの効率化と簡素化を図ってくれていました。また、チェックインカウンターで、タブレットを用いて、車椅子の梱包方法や持つてはいけない箇所、持つて良い箇所を撮影し、到着地の空港と情報共有を行ったりしています。ANA は、JAL に比べてもう少し改善努力を求めたいと書こうと思ったのですが、最近、専用デスクの対応が素晴らしくよくなり、事前登録情報がしっかり共有されていると感じることが多くなっています。私は、睡眠時無呼吸症候群の治療として、BIPAP という、人工呼吸器に位置づけられる装置を旅行に持ち歩いていますが、リチウムイオンバッテリーが使われているため、保安検査場で確認に時間を要することが多々ありました。この問題も、2 社では情報を事前に伝えておくことで、保安検査場の通過が大幅にスピードアップしました。

やはり、事前準備、事前の情報登録を怠らなければ、快適な旅になると実感しています。

とにかく出かけよう！

障害者が快適に航空機を利用するには、現状では航空会社の努力だけでは難しい面があり、我々障害者側も快適なフライトとするために協力をする必要があります。楽しく旅をするための事前準備を行うことで、航空機利用時のストレスを軽減させることは可能です。利用の際に多少のトラブルやハプニングは起こりますが、その先に必ず新しい発見や素晴らしい出会いが待っていますので、その先の価値ある経験のために、どうぞ旅行に出かけてほしいと願っています。

航空会社には、まだ多く改善を求める必要があります。関係省庁、関係機関に、快適に移動する権利を強く主張することも必要です。ただ、障害者の航空機利用が増えるほど、改善せざるを得ない状況になりますので、楽しみながら主張して、我々の行動で改善していこうではありませんか。私が提供した情報が、快適な旅につながることを願っています。外に出ようや！旅行に行こうや！

頸損解体新書 2020・調査報告書作成を終えて

— 実行委員会メンバーからのメッセージ —

2021 年 6 月に「頸損解体新書 2020—自分らしくあるために—」が完成し、約 4 年という長きに渡り行ってきた「頸髄損傷者の自立生活を社会参加に関する実態調査 2020」事業を終え、2022 年 3 月 20 日をもって、アンケート調査票作成からアンケート調査の実施、調査結果をまとめた最終報告書の作成、最終報告書をもとにした報告会の実施までを行うために組織した「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査 2020」実行委員会を解散しました。この実行委員会には、頸髄損傷者をはじめとして、リハビリテーション工学者、福祉機器メーカー社員などの専門家が加わり、現在の頸髄損傷者の自立生活と社会参加の実情を把握し、自立生活と社会参加を促進する上で必要な社会的支援のあり方を示すために、多くの意見を交わし、議論を積み重ねました。実態調査から最終報告書発刊までの道のりはとても大変でした。大変な時間と労力を費やして完成した「頸損解体新書 2020」ですが、この実態調査ではできなかったことややり残したこともあります。次に引き継ぐためにも、実行委員会メンバーからのメッセージを連載方式で掲載します。

頸損解体新書 2020 作成に携わって

愛媛頸髄損傷者連絡会 鈴木 太

今回の実行委員会、新型コロナウイルスで世の中が大混乱になるとも思っていなかった、2018 年 8 月第 32 回リハ工学カンファレンスの会場の一角でミーティングを行ったのが始まりです。軽い気持ちで参加し、そこで大枠の実行委員会が組織されました。関西を中心に関東・四国・沖縄とメンバーが分散していたため元々ビデオ通話の活用を決め、Google Meet を利用しながらアンケート項目の洗い出し各部門を詰めていった頃が懐かしいです。新型コロナウイルスが蔓延しはじめ、全面的にオンラインを活用した実行委員会へと変化していきましたが、不思議と頸髄損傷者にとってはしっくりくることも多くありました。頸損解体新書 2020 にも残しましたが、新型コロナウイルスによる会議のオンライン化は願ったり叶ったりだったようです。

私としては事例報告に関わり、全国の頸髄損傷者と連絡を取り合い、頸髄損傷者になる前から現在までを様々な切り口で記事にまとめていただきました。メール・電話・Zoom 等でやり取りを重ねる作業は大変ながらも、その方々を深く知る機会になりました。表紙、裏表紙のフォトコンテストも軽い発言からスタートしましたが、2020 年頃の頸髄損傷者を目に見える形に残すことが出来て満足しています。

全体的にはアンケート結果を今後どう活用していくかという観点が不足していたため、先を見失う場面がありました。聞きたいことが先行しアンケートが膨大となりました。各部門の専門家にもう一步踏み込んでアドバイスをもらう姿勢が必要と感じました。

追加でこの 10 年の振り返りに、東日本大震災がもたらした影響・新型コロナウイルス感染拡大がもたらした影響などを追加しました。次の頸損解体新書にはどんなトピックが追加されるのか、楽しみと不安を抱きながら 10 年の月日を大切に過ごしていきたいと思います。

頸損解体新書 2020 の調査を終えて

日本リハビリテーション工学協会 植田 瑞昌

私が頸損解体新書を初めて手にしたのは2010年の報告会の時でした。当時は、当事者と研究者が一緒に調査・分析を行ったことに大きな衝撃を受けました。本来あるべき姿と思いつつ、なかなか誰もが参加できる調査ではないため、今回、分析に関して研究者の立場で協力の依頼があったときには、快く引き受けることにしました。私は、途中から実行委員会に加わったので、アンケート調査も終了し、回収したデータの入力も終了した状態で、単純に分析と解析と報告書の原稿執筆に専念させていただきました。

全国調査ということもあり、多くの方からいただいた回答と、多岐にわたる設問に対する当事者の方の思いが詰まったデータの数々を目の当たりにしました。研究者となった今は、改めて、その思いを形にするこの大切さを知ることができました。

まず、膨大なデータを前に、闇雲にクロス集計をするのではなく、当事者が伝えたい内容について仮説を立て、打ち合わせを行いました。さらに、その内容を形にするために、研究者の立場からは、どのデータを用いて、どのように分析していくのか何度も検討・分析を行いました。私が担当した章は、女性頸損者が抱える課題、福祉用具/機器・ICT・バリアフリー、制度・サービス、重度頸髄損傷者の現状と課題でした。女性頸損の方と一緒にお互い女性同士ということもあり課題の抽出と共通の理解を深めることができました。また、福祉用具やバリアフリー等に関しては、20年以上前に建築士として住環境整備に関かかわっていたこともあり、ある程度は頸髄損傷者の生活環境を理解していたため、その知識を活かして、解析を進めることができました。しかし、限られた時間の中でいくつもの分析を行うのは大変な作業でした。さらに、分析した結果が、仮説と異なる場合もあり、その考え方については、生活している当事者でなければ解釈に苦しむこともあり、当事者と研究者が一緒に調査分析を行う重要性を改めて感じました。

頸損解体新書 2020 は調査を開始してから3回目であり、初回から20年の変化をみることができます。経年変化を知るためには同じ設問を設ける必要がありますが、一方で、技術も制度もどんどん変わってきます。そのため、新たな課題を明らかにするためには時代に合わせた設問を設けることも大切です。特に、今回初めて分析に加えた女性頸損者の検討では、男女共同参画社会に向けた課題や子育ての視点での設問が十分ではなかったため、次回、2030年に行う際には、アンケートの構成・企画から関わられることを楽しみにしています。

第37回リハ工学カンファレンス in 東京 リハ工学の先端で、インクルーシブ社会をさげふ

【カンファレンス事前参加申込み開始】

障害のある人に対し、その生活を豊かにするための工学的な技術の発展と普及に関心をもっています。今年も例年通り、支援に関わる参加者が互いに話し合い、交流することができる「リハ工学カンファレンス」を、8月24日～26日の間、東京大学の駒場リサーチキャンパスで開催いたします。

会期：2023年8月24日（木）～26日（土）

会場：東京大学先端科学技術研究センター

ホームページ：<https://www.resja.or.jp/conf-37/>

全国頸損連絡会 & 関係団体 “年間予定”

(2023年8月～2024年7月)

事務局

[2023]

8月20日(日)	赤尾広明前会長追悼イベント	(CILあるる)
8月24～26日(木～土)	第37回リハ工学カンファレンス東京大会	(東京大学先端科学技術研究センター)
9月3日(日)	全国代表者会議(秋)	(岡山県・岡山国際交流センター)
9月17日(日)	兵庫支部・バーベキュー大会	(兵庫県・明石市大蔵海岸)
9月27～29日(水～金)	第50回HCR国際福祉機器展	(東京ビッグサイト)
9月29～10月1日(金～日)	第26回日本福祉のまちづくり学会全国大会	(宇都宮大学陽東キャンパス)
10月2日(月)	全国脊髄損傷者連合会2023年度省庁交渉	(参議院会館)
10月14日(土)	第20回ケアリフォーラムシステ研究会・全国大会 in 豊橋	(豊橋市民文化会館)
10月15日(日)	香川支部・バーベキュー	(香川県・国営まんのう公園)
10月21日(土)	4都県合同交流会	(東京都障害者福社会館・予定)
10月22日(日)	兵庫・京都・大阪支部間交流会	(オンライン)
10月28日(土)	京都頸髄損傷者連絡会40周年記念式典	(京都テルサ)
10月29日(日)	兵庫支部・座談会「パラスポーツ・ポッチャ」	(兵庫県立障害者スポーツ交流館)
10月(下旬予定)	Walk・Again 2023	(場所未定)
11月12日(日)	四国頸損の集い2023	(愛媛県四国中央市)
11月27～29日(月～水)	ニーズ・シーズマッチング交流会2023	(大阪府・CMM)
12月2～3日(土～日)	第12回DPI障害者政策討論集会	(場所未定)
12月12～14日(火～木)	ニーズ・シーズマッチング交流会2023	(東京都立産業貿易センター浜松町館)
12月17日(日)	兵庫支部・忘年会	(場所未定)

[2024]

1月21日(日)	大阪支部・新年会	(場所未定)
3月(上旬予定)	全国代表者会議(春)	(場所未定)
4月17～19日(水～金)	バリアフリー2024福祉機器展(大阪府・インテックス大阪)	
6月8～9日(土～日)(予定)	第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会(愛媛県松山市)	

※開催場所が決定していないイベントは、「場所未定」と記載しています。

※予定日時・場所に変更になる場合があります。対面開催からオンライン開催になる場合がございますのでご了承ください。

※全国機関誌『頸損』発行 4月・8月・12月(年3回)

※お問い合わせは該当各支部、本部事務局までお願いいたします。

お役立ち！？

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾

暑さが苦手な頸髄損傷者にとってつらい夏となりました。十分な暑さ対策をしましょう！

◎ボディークリップファン



ベルトクリップでベルトに固定したり、マグネットクリップでトップスのすそを固定すれば、ハンズフリーで服の中に直接涼風が！3段階で風量を調節できて、USBで4時間充電すれば4～14時間連続で使用OK。リュックのショルダーに付けることもでき、ネックストラップ付きなので首から掛けても使えます。

■サイズ / 高さ約10cm、幅約8.5cm、奥行き約5cm、重さ約210g ※内蔵バッテリー：リチウムイオン電池 3.7V 5000mAh 18.5Wh ※入力（推奨）：DC5V 2000mA（USB充電式）※充電時間：約4時間 ※連続使用時間約4～14時間

※充電用USBケーブル、ネックストラップ付き
※ガードにひも状のものや髪の毛、衣服などを巻き込まれないように注意してください。

※強力マグネットを使用しているので、心臓ペースメーカーなどの体内埋込型医療用電子機器を装着している方は使用できません。

価格：3,980円(税込)

<https://www.felissimo.co.jp/kraso/464557.html>

電話 0120-924-213 携帯電話 0570-024-213

平日／9～18時 土曜／9～17時

(時間外と日祝は音声案内)

◎フレ ネックファン



サイズ W65×D45×H550mm コードの長さ：1m

素材 ABS、シリコン

重量 0.3 kg

カラー グレー、ホワイト

充電式 USB ケーブル付き

価格：3,980円(税込)

<https://francfranc.com/>

お問い合わせはホームページのお問い合わせフォームよりお願いします。

頸損にとって夏の暑さ対策は不可欠です。

このようなアイテムの他にも様々な暑さ対策グッズがあります。自分に合うものを選び、十分な対策の上、外出や活動等を行って下さい。今年の夏もすごく暑いです。

報道・情報ピックアップ

共同通信 3/14(火) 9:09 配信

障害に配慮、24 年度義務化 企業へ、差別解消法の政令

政府は 14 日、企業などの事業者に対し、車いす利用者用のスロープを店舗出入り口に設置するといった「合理的配慮」の提供を、2024 年 4 月 1 日から義務付けることを決めた。改正障害者差別解消法の政令を閣議決定した。合理的配慮はこれまで、国や自治体に提供義務があり、事業者に対しては義務化の開始日が未定だった。政府はこの日、具体的な対応をまとめた「基本方針」も改定。合理的配慮の範囲は「本来の業務に付随するものに限られる」とし、事業者の過度な負担にならないようにした。差別を感じた障害者や対応に困った事業者が相談できる窓口の整備に関し、国や自治体が推進する考えも盛り込んだ。

琉球新報 4/13(木) 15:04 配信

ゆいレール 2 駅に係員常駐できず 障がい者や高齢者「安全面への配慮欠く」と懸念

沖縄都市モノレール社が係員の人手不足を理由に複数の駅での巡回勤務を増やしたことについて、係員がいない時間帯が生じることに、障がい者や高齢者に懸念が広がる。障がい者団体からは今後の対応について、当事者と共に考える機会を持つよう望む声も聞かれた。

NPO 法人県脊髄損傷者協会の仲根建作理事長は、モノレールが延伸して開業したときに、駅のバリアフリー対応状況の確認などをしてきた経緯に触れ「事前に説明や聞き取りがないままに（巡回勤務）が始まることは不安だ」と戸惑いを隠せない。自身も車いすで生活しており、係員に助けを求められないまま希望の駅で降りられずに那覇空港一里を往復してしまった経験がある。巡回勤務の駅では、係員がいない場合にインターホンで連絡し対応を求めることになるが「これまでよりも待機時間が長くなってしまっているのではないか」と懸念した。モノレール社では、視覚障がい者に対して、乗車から降車まで駅員が連携して対応していたという。沖縄視覚障害者福祉協会（沖視協）の知花光英会長は「初めて乗る場合はインターホンの場所や点字ブロックがどこに誘導しているのかも分からないだろう」と説明し、「巡回に決定したと一方的に通知するのでなく、どうすればいいのか共に考えていただきたい」と語った。

NPO 法人バリアフリーネットワーク会議の親川修理事長は、障がい者や高齢者にとっての心理的負担の大きさを強調する。また、外国人なども利用することを挙げ、「コミュニケーションが必要とされる中で、今回の決定は流れに逆行してはいないか」と指摘する。「利用者が取り残されている気がする。安全面への配慮に欠けているのではないか」と憤り、利用者の目線に立った運用の見直しを求めた。（新垣若菜、慶田城七瀬）

愛媛新聞 ONLINE 5/11(木) 18:35 配信

障害者に配慮したコーナー新装 松山市立中央図書館

松山市立中央図書館（同市湊町 7 丁目）の障害者向けコーナーが 11 日、2 階から 1 階に移転し「読書バリアフリーコーナー」としてリニューアルした。さまざまな障害に配慮した図書を集めており、読書補助具を使いやすくするなど利用環境が向上した。認知度が低く利用が伸び悩んでいたため、利用しやすい 1 階西側に移転。点字図書や大活字本のほか、分かりやすい文章に絵記号や写真などを交えた「LL ブック」、音声で本の内容を聞ける「音声デイジー」、布絵本など計 120 点をそろえている。

別の場所にあった拡大読書器をコーナーに移設。利用の際に職員への申し出が必要だった読書補助具「リーディングトラッカー」「リーディングルーペ」を自由に使えるようにした。

書籍紹介



障害のある人の欠格条項ってなんだろう？ Q&A

資格・免許をとって働き、遊ぶには

出版社：解放出版社

販売価格：1500 円（税込）

著者名：臼井久美子

差別・偏見に基づく欠格条項は「障害があるから難しい」と人を見ずに門前払いしてきた。消えた欠格条項もあるが、実は増えている。その歴史や現状、課題、相談方法、体験などを障害当事者、弁護士、医療関係者など多数が執筆。

2023 年 8 月 20 日（日）

『赤尾広明前会長 追悼イベント』

2020 年 2 月に他界されて 3 年半の月日が経とうとしています。コロナ渦の状況も落ち着いてきた事もあり開催を決定しました！赤尾さんとの楽しい思い出をみんなで語り合いながら、改めて赤尾広明という人物をみんなで心に刻みましょう！

開催日：2023 年 8 月 20 日 14:00～15:10（交流会は 15:15～17:00）

開催場所：大阪頸髄損傷者連絡会事務所（自立生活センターある内）

オンライン（Zoom） ※本イベントは対面とオンラインのハイブリット形式です。

参加費：無料（交流会参加の方は 1,000 円）※交流会の参加費は当日、現金での支払いとなります。

申し込み方法：下記のリンク「参加申し込み」よりお申し込みください。

<http://okeison.com/?p=2071>

2023 年度 4 都県合同交流会

4 都県合同交流会とは、東京、神奈川、栃木、福島の頸髄損傷者が中心となり、頸損やその家族、また関わる方々の情報交換、交流の場として毎年行っています。今年の担当は東京です。どなたでもご参加いただけます。詳細決まり次第ホームページやメーリングリスト等にて告知いたします。

日時：2023 年 10 月 21 日（土）14：00～16：00

会場：東京都障害者福祉会館（予定）

＜所在地＞〒108-0014 東京都港区芝五丁目・18-2 ＜電話＞03-3455-6321

最寄り駅 JR 東日本 田町駅から徒歩 5 分 都営地下鉄浅草線及び三田線 三田駅から徒歩 1 分

Zoom と会場とのハイブリット開催を検討しています。

支部ニュース

栃木頸髄損傷者連絡会

10月に4都県合同交流会があります。
それ以外の予定はありませんが、みなさんで楽しめる企画やアイデア、その他ご意見を募集しています。

東京頸髄損傷者連絡会

コロナ自粛も終わり、対面での交流会を計画中です。みなさまに楽しんでもらえる企画を準備していきます。4都県合同交流会を10月21日に行います。皆さんのご参加をお待ちしております。

愛知頸髄損傷者連絡会

今年度は会員が対面で集まれる企画に取り組みます。8月には豊田産業記念館の見学とランチを楽しむ！を実施します。また、10月には頸髄損傷者連絡会・岐阜との合同のBBQを計画中です。

頸髄損傷者連絡会・岐阜

現在、数年ぶりに対面での懇親会を計画中です。岐阜支部の会長であった故山本格生さんを偲ぶ企画を準備しています。
9月17日(日)開催予定

京都頸髄損傷者連絡会

10月28日(土)13時から40周年記念式典を開催します！基調講演では障害者権利条約から見える女性障害者の課題(仮題)と題してDPI日本会議長の平野みどり氏に講演いただきます。

大阪頸髄損傷者連絡会

コロナで止まっていた対面での活動を少しずつ再開していきます。最初の企画として8月20日前会長の追悼イベント、10月に会員の住む街に出かけて交流会などを準備しています。

兵庫頸髄損傷者連絡会

9月17日(日)12:00(受付は11:00から)から明石市大蔵海岸バーベキューサイトで、『大バーベキューフェス』を開催します。参加費は3200円です。肉、食べようぜ！

香川頸髄損傷者連絡会

今年度から集まって行事が出来ることになりお花見・総会・勉強会などを行い、夏に食事会、秋にBBQを予定しています。

愛媛頸髄損傷者連絡会

現在、愛媛では2024年全国総会へ向けた、準備会を計画中です。みなさまに楽しんでもらえる企画を準備していきます。
11月12日(日)四国頸損の集い開催です。

徳島頸髄損傷者連絡会

7月9日(日)例会開催(3当事者+1ヘルパー)
兵庫大会で仲間と話す楽しさや外出の必要性を感じた報告があった。また「65歳の壁」問題について自分が65歳になったら等話しあった。

九州頸髄損傷者連絡会

8月 ビーチスター・ジャリスター体験交流会
9月 ピアカン集中講座
10月 ハロウィンイベント
11月 呼吸器体験会

支部ニュース

全国頸髄損傷者連絡会、各支部からの近況報告や今後の予定を告知していきます。

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(2023 年 7 月現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 1 丁目 1 番地の 1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ばしぶる内

TEL 079-555-6022 e-mail: jaqoffice7@gmail.com <https://k-son.net/>

【郵便振替】口座番号:00110-0-62671 口座名義:全国頸髄損傷者連絡会

※ 各支部、地区窓口につながらない場合は本部にお問い合わせください。

※ 電話でのお問い合わせ等は、平日 10 時～17 時の間にお願いいたします。

福島地区窓口「福島頸損友の会」

〒961-8031 福島県西白河郡西郷村大字米字中山前 146-1 (相山方)

TEL 080-1656-1727 e-mail: hidamari.s@gmail.com <http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508 栃木県宇都宮市若草 1 丁目 10 番 6 号 とちぎ福祉プラザ内(2F)

TEL&FAX 028-623-0825 e-mail: keison@plum.plala.or.jp <http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

〒177-0041 東京都練馬区石神井町 7-1-2 伊藤マンション 205 (鴨治方)

TEL 090-8567-5150 e-mail: tokyokeisonn@gmail.com <http://www.normanet.ne.jp/~tkyksen/index.html>

神奈川地区窓口

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台 696-1 ライム 106 号室(星野方)

TEL&FAX 042-777-5736 e-mail: h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

静岡地区窓口

〒426-0016 静岡県藤枝市郡 1-3-27 NPO 法人障害者生活支援センターおのころ島気付

TEL 054-641-7001 FAX 054-641-7181 e-mail: matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035 愛知県名古屋市昭和区松風町 2-28 ノーブル千賀 1F AJU 自立生活情報センター内

TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail: kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野 4-1-7 ソフトピアジャパン 702 バーチャルメディア工房内

TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail: kson_g@yahoo.co.jp <http://g-kson.net/>

京都頸髄損傷者連絡会

〒601-8441 京都府京都市南区西九条南田町4番地 九条住宅B棟313 (村田方)

TEL 090-8886-9377 e-mail: keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会

〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町 3-4-21 ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターあるる内

TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail: info@okeison.com <http://okeison.com>

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 1 丁目 1 番地の 1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ばしぶる内

TEL 079-555-6229 FAX 079-553-6401 e-Mail: hkeison@yahoo.co.jp <http://hkeison.net/>

香川頸髄損傷者連絡会

〒768-0104 香川県三豊市山本町神田 1223 (長谷川方)

TEL 0875-63-3281 e-Mail: tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田 336-2 (山下方)

TEL 0896-25-1290 e-mail: ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会

〒779-1402 徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻 28 番地 (江川方)

TEL 0884-21-1604 e-mail: awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会

〒874-0919 大分県別府市石垣東 3 丁目 3 番 16 号 別府 J1 階 NPO 法人自立支援センターおおい内

TEL 0977-27-5508 FAX 0977-24-4924 e-mail: kkr@jp700.com



【東京支部より】お花見会の会場としてよく利用していた新宿御苑。JR 新宿駅より徒歩 10 分。周囲 3.5km もある庭園には、約 65 種類、1100 本の様々な桜がある。庭園内も、基本的にはバリアフリーで、他には新宿御苑ミュージアムや、皇室庭園の歴史を今に遺す歴史建造物などがある。

園内の中央休憩所カフェ「SASAYAIORI+」やレストラン「つぶら乃」では、抹茶が楽しめるサービスがある。

編集部通信

●頸損者に役立つ情報、編集企画、また機関誌へのご意見を募集しております

編集部連絡先（担当：宮野） E-mail：h-miyano@st.rim.or.jp

全国頸損連絡会・本部事務局 E-mail：jagoffice7@gmail.com

TEL：079-555-6022

●当会では、善意の活動支援寄付もお願いしております

郵便振替口座番号：00110-0-62671 口座名義：全国頸髄損傷者連絡会

■機関誌広告募集 年3回発行（4月・8月・12月）

機関誌「頸損」は、全国頸損会員（約500名）及び関係する方々に購読していただいています。当会では、広告掲載して活動支援をしていただける、福祉・医療機器業者の方を募集しております。当会HP <http://k-son.net/> をご参照いただき、是非、広告掲載をご検討いただけたら幸いです。

〔広告掲載要綱〕

◎料金：1ページ・2万円 / 半ページ・1万円（※ 1年以上継続契約の場合は半額割引）

◎問い合わせは上記の編集部連絡先、または本部事務局までお願いいたします。

編集後記

4年ぶりの対面式の全国総会が兵庫県姫路市で行われた。担当支部である兵庫支部の方々は本当に大変だったと思う。お疲れ様でした。約1年前から兵庫大会実行委員会を立ち上げ、どうしたらこの現状で皆さんに参加して頂けるのであろうかと試行錯誤されたと思います。その結果として多くのご支援やご協力により、100名を超える参加があったと聞いている。また大会最後に行われた姫路城車椅子登城ツアーは、地域の新聞に掲載されたと報告があった。さすがに電動・手動車椅子合計25台での登城はかなりのインパクトがあったのではないだろうか。登城を手伝ってくれた皆さんには本当に感謝です。

(S・K)

**冬の冷えから 首～胸、
膝下・ふくらはぎ を護る！**



**フリース素材だから、
暖くて暖か！**

商品コード：
UDLU-01A

『エルケット』
フリーサイズ

日本製：320g

カラー：ブルー、オレンジ、グレー

頸損読者特典：① 1枚 4,400円(税込)→4,000(税込)

② 2枚セット 6,000(税込)

③ 送料無料

1. 車いすに座ったままで、簡単装着

2. 柔らかボタンで、着崩れ防止

3. 家庭洗濯可！速乾ポリエステル 100%

お申し込み・お問い合わせは、tsubaki@peace21.co.jp まで

株式会社 Peace21 ウェブサイト <http://www.nijihiro-tsubaki.com/>

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可（毎月六回）・六の日発行
二〇二三年七月十四日発行 SSKA頸損 通巻第一一〇八五号

編集人

東京都練馬区石神井町
七―一―一二〇五
全国頸髄損傷者連絡会

発行人

東京都世田谷区祖師谷三―一―十七
ヴェルドゥーラ祖師谷一〇二号室
障害者団体定期刊行物協会

全国頸髄損傷者連絡会

〒669-1546

兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1

フローラ88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL : 079-555-6022 Email : jaqoffice7@gmail.com

頒価 250 円

無断転載・複製を禁じます